



私の看護師としての生き方

私が看護師になって40数年になる。
これまでの私の看護師としての生き方について、少しでも誰かに伝えることができないかと思ひ、今回から数回に渡り お伝えしていきたい…。

私は 看護学校卒業後、民間病院に勤務する。
そこでは「看護師は医者言うことに従えばいいんだ…」と。
そんな病院の方針に失望し、大学病院に転職したのは看護師になって5年目の頃だった…。バタバタと飛び回り、一人で何人もの看護業務をこなしていた民間病院とは違い、ゆっくりと患者さんと向き合い、常に「看護とは何か?」を追求する大学病院は私にとって魅力的な職場であった。



私は病棟で、あきら君という小学校1年生の担当看護師になった。
右足に悪性の腫瘍が見つかり、抗癌剤治療を行ったが治癒せず、右足を膝下から切断することとなった。抗癌剤の副作用で幼いあきら君の髪の毛はなくなり、吐き気で何度も苦しみ、やっと治まったかと思った矢先の話だ。

私は看護師として『彼と どう向き合い、何をしなければならないのか。足の切断手術について 誰が彼に伝えるのか』医師と家族、そして受け持ち看護師の私、その誰もが彼に手術のことを言い出せず、シーンとした数分間の時間が長い時と変わった。

「あきら、お前が元気になるには悪い足を切らないと治らない…」
必死にこらえながら彼に伝える父親の言葉に、私はただただ涙を流すだけだった。

そんな家族の温かい愛情に囲まれ、あきら君は足を切断した。手術後のリハビリでは、義足をつけたあきら君と平行棒を一緒に歩いた。

あきら君には『大好きな野球をお父さんと一緒にやりたい!』という強い願いがあり、その努力は 何ものにも勝るものはなかった。私は、毎日一緒にリハビリを行い、歩行も一人で安定し、数ヶ月が過ぎた頃、左肘にも腫瘍が転移していたのが見つかった。彼は 痛みもあったが、腕も切断されてしまうと思ひ、痛みを必死に耐えていたらしい。

切断した足に義足を付け、『大好きな野球をお父さんと一緒にやりたい』と、その一心からリハビリに励み、左肘の痛みにも耐え、懸命に頑張っていたあきら君が亡くなった。

『相手の立場にたって物事を考える』などと看護学校で教わったが、私だったらあきら君のように頑張れただろうか?

髪の毛が抜け、吐き気に何度も襲われ、足の切断までした意味は何だったのだろうか? 私は何をしていたのだろうか? と、思ふばかりの私は 彼の死をその後もなかなか受け入れられず、看護師を辞めた。

あきら君の葬儀で、何もできなかった私にあきら君のお父さんは「優しくあの時、あきらと一緒に悲しんでくれてありがとう」と。声を掛けてくれた。

あれからもう何十年が経っただろう?

私は 訪問看護ステーションを開設し、あきら君の死を無駄にしないよう、常に相手の立場にたって 本当にこの方法、選択が正しいか?

ベストであるのかを本人、家族と一緒に考え、寄り添った看護を心掛けている。

あきら君の死は、私にとって一生忘れられない出来事である…。

金沢 二美枝

バラもアイスもいいけど
こうして皆で元気に
出かけられるって
いいね👍



春のバラフェスタ

2023年

行ってきました!



もう
いただいてま〜す!
アハ(笑)



バラ味の
ソフトクリームも
うまいな...



ほら! みんなも
アイス 食べな

今日は
天気もいいし
真っ赤なバラが
綺麗ね!



夫も花が大好きだったわ



妻も花が大好きだったな

のぞみ 希望 日誌

ご家族からの嬉しい 贈り物

母の日に毎年ステキなカーネーションが届きます!
「花が好きだった母の代わりに『ケアホーム希望』の
利用者さん達が少しでも 笑顔になれたら うれしい」と
ご逝去された方の 娘さんより贈られてきます。
いつまでも母を大切に想う気持ちと、一緒に過ごした
方々への感謝の想いに感激しますね!

